

第34回総代会の発言

無料低額診療事業

スタート、新大田
病院建設順調に



大田病院 井口 事務長

無料低額診療がいよいよスタートします。6月1日に東京都に認められ7月1日開始。生活困難な方への自己負担の軽減のための事業です。現在、大田病院に來られる患者さまの約20%の方が生活保護の方々です。申請の手続きなど大変な面もありますが、まずは来ていただければ相談にのれます。また具合が悪くても医療機関にかからない方がいたら教えてあげてください。大田病院だけでなく城南福祉医療協会の診療所でも相談にのれます。

グループホーム「虹の家しおかぜ」が1
月スタートしました



虹の家しおかぜ 橋本 所長

「しおかぜ」が開設して6カ月がたちました。現在2ユニット

18人の方々(62歳~92歳)が元気に生活しています。「しおかぜ」はとても環境がよい場所にあります。保育園や小学校から泣き声や笑い声が聞こえてきて良い刺激になっていると思います。運動会の招待券をいただきみんなで観に行ってきました。また、年4回地域の方々との会議も行って、町会長さん、自治会長さん、民生委員の方なども参加していただき、サポートしていただいています。今後も、人間としての尊厳、入居者のみなさまの心と向き合っていく施設運営を行ってまいります。

三ツ木歯科の活動
展開・大田歯科の
往診も



三ツ木歯科 北村 さん

三ツ木歯科は今年5月で開設16年になります。三ツ木歯科に限らず、全国的に歯科への受診率はとても低いのが現状です。医療機関へかかる情勢が厳しいのも大きい問題ですが、「いたくなければ受診しない」ということもあります。そのため、歯科医の中には年収500万円以下という方も少なくなく、自費診療だけにきりかえている歯科も増えていきます。患者さまの立場からみると「歯医者ほどのくらいお金がかかるの?」「治療にどのくらい期間がかかるの?」「という不安もあるよう

健康診断を受けましょ
う、郵送で気軽にでき
る大腸ガン検診もぜひ



大森中診療所 高橋 さん

大田区の健康診断は6月からはじまっています。40歳~74歳の特定健診は12月31日まで。75歳以上の長寿検診は来年の3月31日までです。大森中診療所では、夜でも第3日曜でも予約なしで受けられますので、ぜひいらしてください。また、郵送で気軽にできる大腸ガン検診は、中診でも生協本部でも扱っています。大腸ガンは早期発見が大切です。一命をとりとめた事例などもありますので、ぜひ年に1度検査することをおすすめします。(高橋さんの訴えで、総代会当日20個の検査キットが普及されました)

城南保健生協が行う
さまざまな活動、学
習会に参加して

さまざまなたくみに参加できるようになったキッカケは、「手配りボランティア募集」の記事をみて、機関紙配布をはじめた



池上支部 星野 さん

です。三ツ木歯科では、そのような不安にお応えするために「無料相談」の「旗」を三ツ木診療所の入り口に立てています。口は健康の入り口です。ぜひご相談にいらしてください。また、大田歯科には往診チームがあり、毎日2人の医師が担当しています。こちらもぜひご利用ください。

ウオーケラーは、最近では工夫されていて、中原街道を歩きながらクイズがとける形式や、楽しく参加しています。また、バスハイクは昨年「ぎょうざ食べ放題ツアー」に参加しましたが、おいしくて、楽しくて安全に配慮された企画だと感じました。学習会も数多く参加しています。

私は、患者として大森中診療所、大田病院にかかっています。職員の方々の姿に感動をおぼえています。定年退職後は、介護ヘルパーとなり、お役に立ちたいと思っています。

コラボ大森の活動
を通して、歩こう
会誕生



大森西北蒲田支部 塚平 さん

コラボ大森で月1回、お茶を飲みながら血圧、体脂肪を測っています。一人暮らしの方々へのお誘いもしています。しかし、健康チェックだけで健康が保たれるのかとなるとそうではなく、歩くのはどうか?という話になり毎週「歩く」ことを決めました。昨年の11月に4

人でスタートして、現在は8人です。区民センターに集合し、ふるさと海浜公園や平和の森公園など、もみじ、梅など季節を感じながら歩いています。歩くペースはゆっくりで3キロを約1時間30分です。公園に着いたら肩をほぐす運動などもしています。家で一人で行うのはなかなかできないが、みんなと一緒に歩けるように外に出られなかった方も参加するようになりました。今後も「健康は財産」と考え続けていきます。

で、最後まで住み続けられるまちづくりの運動を行っていきま

3年前に定年退職しました。その時まで「定年した後のこと」を考えたことはありませんでした。保健生協の組員なので、ボランティアをやろうと思



ゆたか支部 古口 さん

ゆたかの家の12年

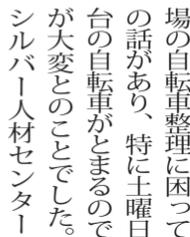
ゆたかの家は、昨年5月にゆたか診療所の2階に移りました。食事は開設当初から行っています。学習会の要望なども聞き、開いてきました。のんき通りでは10年間青空相談会をバザーで行ってきました。1万円旅行で日帰り温泉めぐりなども行っています。日常的には、書道、マージャン、おしゃべり、クリスマス会、反核フェスティバルなど1年があつという間に過ぎていきます。ゆたか診療所の通所リハのお手伝いも要請があれば行っています。また、地域の方々とのコミュニケーションにも力を入れていて、地域の世代間交流をすすめるというところで、町会や児童センターなどとも連携し、竹馬の会孫と囲碁をする会なども行っています。成年後見人制度では、NPOの立ち上げに参加してきました。今後も安心して、安全

定年退職後はボラ
ンティア活動を



大森笹谷支部 石川 さん

もらうのですが、家の戸を開けてもらえないのです。介護保険の申請もしていませんし、その他の制度も利用しようと思せずに。そのような方に、どのように接していくのか、という手



大森笹谷支部 安田 さん

若返り班の
とりくみ

若返り班ができて3年6カ月になりました。班員が順調に増えて、30人を超えました。健康チェック、血圧測定、体脂肪測定などは班のみんなで協力して行っています。くり返し行うことも大切ですが、マンネリ化しないために、新しいこともとり入れていきます。年間行事も決めています。歯の話の学習、介護の学習、栄養の話など、とりわけ先日行われた「サプリメントの話」はクイズをとり入れた話で、楽しくても勉強になりました。一人ひとりのつながり

地域の状況

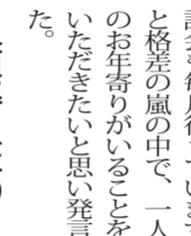


うのき雪谷支部 藤 さん

貧困、格差社会がすすむ中で、私のまわりでも悲惨な状況があります。80歳の女性、一人暮らし、認知症、被害妄想などもあるようです。ガス、水道、電気止められて、ロウソクで生活しています。危ないので、懐中電灯を渡しています。地域包括支援センターに連絡して来て

残った言葉です。「健康づくりの楽しさ」仲間づくりを心がけて地域まるごと健康づくり安心のネットワーク

毎週行っている大森中
診療所での「なんでも
相談会」について



色部 常務理事



大森笹谷支部 安田 さん

大森中診療所の外来で「なんでも相談会」をはじめて5年になります。月曜日は小関理事長、木曜日は色部が担当しています。ここ数カ月前から、相談の質に厳しさが増していると感じています。生存しているということの相談です。仕事がなくなつて医療費をどうするか? 主人も具合が悪くなって自分

病院にかかるのを控えている。ドライバーの仕事をしていた方は夜走り回って、体をこわして解雇され、預金も底をついた。大田病院で決まった無料低額診療は、このような中でも大きなものです。とにかく健康が第一です。まず受診して健康をとり戻してほしい。後のことはそれから考えましようとお話しています。困っている方々の相談相手になって、政治のしくみや行政を変えていかなければと感じています。地域で孤独死を出さない、お金がなければ病院に行くことができないしくみを変えていきたい。今、城南保健生協ががんばる時です。

